

1 目指す学校像

児童生徒一人一人が主体的に活動し、自己を肯定的にとらえることができるよう個々のニーズに応じた教育ができるよう支援を行う。  
 ○個々の児童生徒に対応することで治療中の児童生徒が登校を楽しみにする学校 ○保護者から信頼される学校  
 ○医療関係者等と連携し協働できる学校 ○教職員が活き活きと仕事ができる学校

2 本年度の教育目標

一人一人のニーズに応じた教育を推進し、社会参加・自立できる人間の育成をする。

3 評価

評価者  
 ○児童生徒 11名  
 ○保護者 11名  
 ○病院関係 アンケート回答者 37名  
 ○教職員 5名

評価の基準  
 A：設定した目標を十分達成できた。  
 B：設定した目標に対し、ほぼ達成でき、次年度の課題が明確になった。  
 C：設定した目標に対し、成果が不十分であり、課題が残った。  
 D：設定した目標に対し、ほとんど達成できなかった。

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自己評価	学校関係者評価	今後の課題		
1 授業に関する事	<p>○学校関係者からは、授業を参観したことがなく「わからない」の回答があるが、全員に授業を見てもらうことの難しい課題が残る。</p> <p>○教職員自身は、まだまだ力量不足な面を感じているため、授業づくりに向けて教材研究や授業展開等の研修に取り組む必要がある。</p>	<p>○学校関係者に授業について知ってもらう機会をつくる。</p> <p>○個々の児童生徒に合わせた指導方法、教材、教具を関係機関と連携しながら研究する。</p>	<p>○参観週間に授業を見てもらえるよう案内をする。</p> <p>○教職員それぞれが自分自身の授業力向上のために教材研究や研究授業等に取り組む。</p> <p>○授業改善のために、関係機関に協力を得ながら、教材研究等を行う。</p>	<p>○参観週間に授業を見てもらえるよう案内をしたが、実際の参加が難しうで参観者はなかった。</p> <p>○教職員全員による研究授業に取り組むことができた。その中で、教材の開発、授業展開等について全員で考えることができ、改善に向けての話し合いもできた。</p> <p>○授業改善のために、関係機関に協力を得ながら、教材研究等を行ったが、改善の余地がある。</p>	B	<p>質問1 わかりやすい教材であるか？                  児童生徒 [5]63.64%、[4]36.36%                  保護者 [5]63.64%、[4]27.27%                  教職員 [5]20% [4]60%                  学校関係者 [5]16.67%、[4]19.44%</p> <p>質問2 わかりやすい教材であるか？                  児童生徒 [5]63.64%、[4]27.27%                  保護者 [5]63.64%、[4]27.27%                  教職員 [4]40% [3]60%                  学校関係者 [5]22.22%、[4]16.67%</p> <p>○児童生徒や保護者からは、分かりやすかったや子どもにも丁寧に教えてくれると一定の評価がされている。                  ○教職員は、昨年度より自信のなさが数値に表れている。                  ○学校関係者からは、実態が分からないの意見が50%前後での回答が見られた。</p>	A	<p>○学校関係者からは、授業を参観したことがなく「わからない」「大学に戻ったばかりでわからない」の回答があり、全員に授業を見てもらうことの難しい課題や学校関係者が転勤等で変わるため、年間を通じてご理解をいただくための活動が必要となる。</p> <p>○教職員自身は、まだまだ力量不足な面を感じているため、授業づくりに向けて教材研究や授業展開等の研修に取り組む必要がある。</p>
2 児童・生徒指導に関する事	<p>○学校関係者からは、評価する声と「治療中(?)の子に対しては少しきびしいと思う。きびしさは必要だと思うが、自分が患者ならやる気がそげると思うときがある」のご意見もあり、児童生徒理解について今後も研修する必要がある。また、学校関係者に学校の教育活動についてのご理解をいただく活動が必要と考える。</p> <p>○分校に在籍する児童生徒は、常に変わるから、個々の児童生徒や保護者の状況に合わせて接していく必要があるため、今後も相談しやすいと感じてもらえるよう実践力を高めていく必要がある。</p>	<p>○不安やストレスを抱えた児童生徒の気持ちに寄り添い、心のつながりを築くなど、子どもの内面にアプローチできる教師の資質向上を図る。</p> <p>○自立活動、課外活動の内容を工夫する。</p>	<p>○心の教育アドバイザー及び外部講師による病気の児童生徒への心理的ケアについての研修を実施する。</p> <p>○児童生徒の情緒安定を図るために、外部講師による本の読み聞かせや音楽会等を実施する。</p>	<p>○心の教育アドバイザー及び外部講師による病気の児童生徒への心理的ケアについての研修が実施でき、日々の教育活動に役立てるよう心掛けた。</p> <p>○児童生徒の情緒安定を図るために、外部講師による本の読み聞かせや音楽会等を実施することができた。</p>	B	<p>質問3 相談しやすいか？                  児童生徒 [5]54.55%、[4]27.27%                  保護者 [5]63.64%、[4]27.27%                  教職員 [4]20% [3]80%                  学校関係者 [5]16.66%、[4]16.66%</p> <p>質問4 理解してくれているか？                  児童生徒 [5]63.64%、[4]127.27%                  保護者 [5]63.64%、[4]63.36%                  教職員 [5]20% [4]20%                  学校関係者 [5]27.77%、[4]27.78%</p> <p>○児童生徒、保護者からは、相談しやすく、理解してくれるの評価をいただいている。                  ○教職員自身は、対応が十分でないと感じている。</p>	A	<p>○学校関係者からは、評価する声と「児童生徒に対して、あまりほめず時間がかかったねとか言ったり、あまり笑顔じゃない人が数名いる。」のご意見もあり、児童生徒理解について今後も研修する必要がある。また、学校関係者に学校の教育活動についてのご理解をいただく活動が必要と考える。</p> <p>○分校に在籍する児童生徒は、常に変わるから、個々の児童生徒や保護者の状況に合わせて接していく必要があるため、今後も相談しやすいと感じてもらえるよう実践力を高めていく必要がある。</p>
3 学校運営に関する事	<p>○研修会や講演会については、早い時期に計画し本校や南国市の小中学校に対して案内するよう取り組む必要がある。</p> <p>○前籍校や病院との連携については、学校当事者や担当者ではないと分からない部分があり、保護者や学校関係者に対してご理解いただく活動の取り組みが必要である。</p>	<p>○特別支援学校としてのセンター的機能を充実させる。</p> <p>○病院、保護者、前籍校との連携を図り、学習の保障と円滑な前籍校復帰を図る。</p> <p>○学校関係者や保護者に病院や前籍校との連携を理解してもらうよう取り組みを知らせる。</p>	<p>○専門性の向上を目指した研修会や講演会に本校や南国市の小中学校に案内をする。</p> <p>○医教連絡協議会や医教連絡内の各分野と連携した会を実施する。</p> <p>○居住地校交流・支援会議等必要に応じて開催する。</p>	<p>○専門性の向上を目指した研修会や講演会に本校や南国市の小中学校に案内をしたが、参加はなかった。しかし、南国市の要請による相談事業に教員を派遣し、連携を図った。</p> <p>○病院関係者の協力により医教連絡協議会や医教連絡会を継続して実施することができ、児童生徒の実態把握ができ、学習活動に活かすことができた。</p> <p>○居住地校交流・支援会議等必要に応じて開催し、前籍校との交流教育や退院後に安全な学校生活がおくれるよう取り組むことができた。</p>	A	<p>質問5 交流教育ができていますか？                  児童生徒 [5]54.55%、[4]9.09%                  保護者 [5]90.91%、[4]100%                  教職員 [4]100%                  学校関係者 [5]36.11%、[4]25%</p> <p>質問5 病院と連携しているか？                  児童生徒 [5]45.46%、[4]27.27%                  保護者 [5]81.81%、[4]18.18%                  教職員 [5]60%、[4]40%                  学校関係者 [5]45.71%、[4]17.14%</p> <p>○交流教育や病院との連携は、児童生徒、保護者と学校関係者から、一定の評価が得られた。</p>	A	<p>○研修会や講演会については、早い時期に計画し本校や南国市の小中学校に対して案内するよう取り組む必要がある。</p> <p>○前籍校や病院との連携については、児童生徒、保護者や学校関係者に一定の評価をいただいているが、在籍の児童生徒や学校関係者が常に変換ることが予測されるので、ご理解いただく活動の取組を続けていく必要がある。</p>